

高等学校(全学年)「特別活動」

○授業のねらい

- ・自分を知り、思春期の生と性に関する理解を深め、いのちの尊さや人とのつながりについて考えることで、生徒一人ひとりが自他を大切にす気持ちを持ち、望ましい人間関係を構築する。
- ・望まない妊娠や、性感染症予防のための知識を生徒が身に付けるとともに、性犯罪、性暴力についての理解を深める。

○指導形態(工夫したこと)

- ・講話では、日頃の性に関する悩みや疑問等を気兼ねなく話すことができるよう、講師の助産師と事前に打合せをし、通常の学校生活では話すことのない異学年混合によるグループ学習形式で実施した。
- ・グループ学習では、他者の話を最後まで聞くことや、自分の思いや考えを相手に伝える機会となるよう互いに話しやすい環境を整えた。

授業の内容



助産師による思春期講話の様子

<実際の授業で工夫したこと>

導入

- ・生徒が積極的に参加、発言できるよう、異学年集団相互でのアイズブレイクとグループ学習を実施した。

展開

- ・講師は、時間内で生徒相互が気兼ねなく話し合いができるよう、生徒に対する助言内容に配慮した。
- ・グループワークを通じて、「自他を大切にすることについて何ができるか」について、お互いの意見を参考に考えを深めさせた。

終末

- ・生徒が、命の大切さについて理解し、今後の生き方について考えることができるよう、ICT 端末を活用しながらまとめ・振り返りを行った。

<児童生徒の感想>

- ・コンドームの正しい使い方や妊娠についてなど、スライド資料がとても分かりやすく勉強になった。
- ・縦割りでのグループ活動は他者との交流が増えるのでとてもよい。事例が2つあったのもよかった。
- ・性に関することをこんなに詳しく説明してくれる講話を受けるのは初めてで、貴重な体験でした。
- ・自分の幸せと相手の幸せをしっかり考えて行動に移していくことが改めて大切だと感じました。

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

- ・助産師による講話やグループ学習を通して、命の尊さとパートナーとのよりよい関係性について理解を深めることができた。
- ・外部人材を活用することで、学校では扱いづらい、コンドームの正しい着用の仕方に関する内容などについても触れるとともに、妊娠と性感染症について講話を通じ、的確な指導を行うことができた。

○今後に向けて

- ・互いの性を尊重する姿勢と、周囲に流されず自分で意思決定できる力を身に付けさせるため、今後も計画的・継続的に性に関する教育(デートDV他)を実施する。
- ・自他の命がかけがえのないものであることを実感できるよう、今後も「命」をテーマにした取組を、家庭や関係機関と連携して実施する。
- ・今後も、月1回の全校集会を実施し、生命の安全教育を継続して実践していく。